



東京日々新聞

九百廿六号



日向國臼杵郡永井村にて先月

十一日明見社の祭禮のりよ

村の者ども集りて例の村芝居

と催したるに狂言の羽衣忠臣蔵

の五段目に至りて此村の精藏と

云々との定九郎は捨し舞臺に出て

彼の久しかりの五十兩と云ふ件首尾

を行き今日の出來の精藏兄の定九郎

多りと見物も答め居りしふ

勘平は扮したる男うねて所持

の桶鏡と持出し父ト火蓋を

切て落さずや定九郎の彈丸は

打貫られてツンと仰り倒れ即死

しりと勘平も相濟すとて腹を切りや首を

未だ確報を扱ひ村戯場可笑しき事有り也し

此精藏の如き猪子報ひりものまじき

實に惘然の至りたりと人々興と興

たるる

一葉齋



具足屋

